

平成 29 年度 総会議事録 平成 30 年 3 月 16 日 (於埼玉大学)

1. 運営委員選挙結果報告

選挙管理委員会より運営委員選挙の結果が報告された。投票総数 33 票、有効投票数 31 票であった。

2. 編集委員会報告

- ①本年度の投稿数は 3 報あり、掲載は 1 報、却下 1 報、査読中 1 報であった。
- ②バックナンバーの PDF 化が完了した。これに伴い電子ジャーナルとしての ISSN および DOI の取得を目指す。
- ③学術講演会要旨集は、これまで大会委員長マターであったが来年度からは編集委員会もチェックすることとなった。
- ④正会員と非会員との差別化を図るため、パスワードなどを設けて WEB 上で正会員のみが学術講演会要旨集を閲覧できるようにする。

3. 経理委員会報告

- ①本年度の収入は 663507 円、支出は 946918 円で繰越残高は 2504721 円で昨年度より 283411 円減少した。この結果は会計監査委員により監査され承認された。

4. 事務局報告

- ①会員異動

新規入会者 4 名、アストロバイオロジーネットワークからの移行者 20 名、退会者
(これまでの退会未処理者全てを含む) 19 名であった。

②現在の会員数は、正会員 158 名、学生会員 10 名の 168 名である。

③事務局が把握している会員数と経理委員会のものが一致しないので、これまで両
者が独立的に行なっていた入退会処理を一本化して会員数に齟齬が生じないよう
に作業しているところである。

5.次期運営委員の決定

運営委員選挙の結果、会長、運営委員長、事務・経理・編集責任者、運営委員は以下
のように決定された。任期は 2 年である。なお、委員の変更は総会承認事項なので、
このことを総会に諮り承認された。

会長：小林憲正、運営委員長：小林憲正、事務責任者：三田 肇、会計責任者：横堀
伸一、編集責任者：田村浩二、委員：井田茂（運営委員長指名）、大石雅寿、川村邦
男、木賀大介、田近英一、田村元秀、胸組彪胤、藪田ひかる、

6.次期学術講演開催地

次期開催地は国立天文台（世話人：大石雅寿）、次々期開催地は早稲田大学（世話
人：木賀大介）になった。

7.第三条（学会所在地）の一部修正

事務局の所在地を「福岡工業大学工学部生命環境科学研究科」→「福岡工業大学工

学部生命環境化学研究科」に修正した。

8. 学会に関する重要事項の WEB 化

学会誌の完全 WEB 化に伴い印刷物の配布は終了したので、会則、各種委員の氏名・所在地等の重要事項は学会 HP に記載されたものを正とした。

9. 会則第 6 条（会員資格消失）、7 条（会誌の配布）、その他の改正案

① 第 6 条 会員資格消失までの手順のルール

- a) 会則の改定は行わない
- b) 運用で対応する、2 年以上未払いの場合対処する
- c) 経理が支払い請求を行い未払い者の報告を運営委員会に行う。
- d) 運営委員会の決定により、事務局が名簿から削除する。

② 第 7 条の変更（赤字部分）

現行「第 7 条 会員は本学会のおこなう事業に参加し、本学会発刊の学会誌 Viva Origino その他の印刷物を受け取ることができる。」→「第 7 条 会員は本学会のおこなう事業に参加し、**学術講演会で発表し**、本学会発刊の学会誌 Viva Origino **その他の印刷物**を受け取ることができる。」と変更し、正会員に学術講演会での発表資格を与え非会員との差別化を図る。

③ その他

- a) これまでの規約改定を HP 上に反映する（三田マター）

b)HP 左側バーの連絡先メールアドレス secretary@origin-life.gr.jp は機能してないので新アドレス mita@fit.ac.jp に変更する。

c)運営委員選挙で上位10人を運営委員にすることを補則で明文化する。

10. 役員の役割分担の再確認

①運営委員長：学会運営の総括責任者、運営委員会の主催と議事進行・管理、総会の主催・議事進行および議事録の作成

②事務局：会員名簿管理、入退会者の管理、HP 管理

③経理：会費請求、収入・支出管理、経理簿の管理

④編集委員会：学会誌編集と講演要旨集のチェック

11. 編集補助者（佐伯）の今後の契約形態、業務内容について

現行では編集と事務局の下で補助作業をしてもらっているが、この業態が今後とも継続できるのかどうか、。運営委員会4役（委員長、事務局長、経理委員長、編集委員長）で検討し運営委員会で諮る。

12. 学会 HP の管理ルール

①ホームページ管理は会長・運営委員長、事務局責任者、編集委員長（学会誌）の責任の下で変更・修正を佐伯さんに依頼し実際の作業をしてもらうことを基本とする。

② 佐伯さんが落ち着くまで当面の実務は事務局責任者の三田先生に依頼する。

③上記 8 の通り、会則、各委員名簿、学術講演会、その他の活動などの学会に関する事務的情報は WEB に掲載されたものを正とする。学会誌など印刷物に掲載されたものは公式なものとしなない。

④上記 11 とかぶるが、長期的視点に立って H P 管理を含む WEB 管理をどのようにするか検討を始める（事務局でアルバイトを雇うとか、専門的に WEB 担当を置くとか業者委託にするかなど）。

13.生命の起原辞典出版計画の進捗状況報告（藪田）

①生命の起原に至る化学進化及び生命科学を主とした内容（化学・物理・生物を中心とし、宇宙や地球は脇役。既刊のアストロバイオロジー事典と類似しないようにする）

②総ページ 300-500 ページ、キーワード 200-300 項目、1 項目 1-2 ページ、執筆者総数 50-100 名を想定。

③チーフエディターは藪田、コアエディターは川村、古川、根本、木賀が担い運営委員会+専門家を中心に 15-20 名で組む。目次・キーワード・執筆者選定・執筆・査読・監修、出版社との打合せ等を行う。学会全体としての事業とする。

③ 2 年後に出版できることを目標とする。

14.アストロバイオロジーネットワークとの統合後の運営

① アストロバイオロジーネットワークのメール管理者（大石雅寿）

②アストロバイオロジーネットワークのメールと学会および友の会のメールアドレスの統合：河村が友の会会員に確認の後、希望しない友の会会員のメールアドレスを三田が大石に連絡

② 生命の起原および進化学会、次回大会でのワークショップとの合同開催

a)アストロバイオロジーネットワークワークショップは秋開催の方向で、小林会長が検討し運営委員会に提案する。

b)次回の大会（国立天文台）と自然科学研究機構 ABC ワークショップとの連続開催を大石雅寿と田村（ABC）と相談する。

c)アストロバイオロジーネットワーク HP の維持管理

1.当面は維持する管理は横堀が担当

2.生命の起原および進化学会 HP との相互リンクをはる

3.アストロバイオロジーネットワーク HP に生命の起源学会のネットワークである等の変更を行う。世話人名、顧問名は暫定的に維持。

4.その他は運営委員会で検討、決定。

15.会則変更を至急 HP に反映する（三田マター）

①昨年度の総会で承認済の会則一部変更（赤字部分）

「地球上における生命の起原を科学的に解明することと、」 → 「地球上および宇宙

における生命の起原を科学的に解明することと、」

②昨年度の総会で承認済の学会の一部名称変更（赤字部分）

日本語名：生命の起原および進化学会

英語名：The Society for the study of the Origin and Evolution of Life :

Astrobiology – JAPAN

英語略称：SSOEL:**Astrobiology**—J

16.その他

①学術講演会要旨集の残部取り扱いについては引き続き検討課題とする。

②アストロバイオロジーネットワークが現在持っている資金を生命の起原および進化学会の口座に振り込む。

③学会ロゴを囲む学会名称文字は当面このまま使用するが早い時期の変更を目指す。

④会員と非会員の差別化を図るため、学術講演会の参加費を参加費+年会費分とする。例えば今回は参加費が5000円だったので、年会費6000円を加えて11000円が非会員の参加費ということになる。